

# 同和問題の 解決に向けて

内閣府「人権擁護に関する世論調査」(平成24年)での『同和問題についてどのような問題が起きていると思いますか?』の問いに対して6つの問題点があげられています。

- ①結婚問題で周囲が反対すること
- ②身元調査をされること
- ③就職・職場で不利な扱いを受けること
- ④差別的な言動をされること
- ⑤差別的な落書きをされること
- ⑥インターネット上での差別的な情報を掲載されること

同和問題は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、日本国民の一部の人々が、長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態に置かれることを強いられ、今なお、日常生活の上で様々な差別を受けるなど、わが国固有の人権問題です。

この問題の解決を図るため、昭和44年以来33年間、特別措置法に基づき、地域改善対策が行われました。その結果、劣悪な環境に対する物的な基盤整備は着実に成果を上げ、格差は大きく改善されました。

「人権の世紀」をめざす21世紀。一部の人の教育・啓発を任さず、一人一人が、啓発者であることを自覚し、日常の行動につなげることが大切です。

先にあげた「人権擁護に関する世論調査」で、『同和問題の解決に必要なことは何ですか?』という問いに一番多かった答えが「同和問題を解決するための教育・啓発広報活動を推進する」でした。皆さんは、すでに解決方法の一つを知っているのです。

今、社会は情報化社会といわれインターネットによる情報が氾濫しています。インターネットでは発信者の本名を伏せて投稿できます。誰もが他者を排除することや誹謗中傷・差別がよくないことは知っているはずなのに、悪意のある表現を目にすることがあります。書き込む人の『名前が分か

市人権推進課(教育庁舎1階)  
☎ 32・2122  
FAX 33・3525  
Mail: jinkensushin@city.komatsushima.tokushima.jp

## 市民文芸 花みずき歌壇 (314) 松並敦子・選

いつわりも見栄も未練も消してゆき爽やかに書くエンディングノート

立江町 湯浅かや子

《評》人生の締めくくりを記す、終活ノートとでも言うべきものに向かう作者が、長い人生の中から「見栄」「未練」などを葛藤しながらも捨ててゆき、本当に残したいものだけを書き残すことが出来た達成感が伝わってくる。自分の人生の総括が出来ることは素晴らしいことで、心身共に健康で余裕のある内しておくべきことだろう。

食べ物を残すのもよしと言われている血液検査の数値を見つづひのみね総合療育センター 関 政明

知らぬ間に仲間の顔がやわらかいカラス談議に費やすひととき 横須町 山崎 泰子

霧が飛ぶ日の峰山の天空は街から観れば雲海の城 中田町 倉橋 正則

阿波踊り曾孫も浮かれ棧敷より団扇振りふり腰も振りふり 赤石町 田原トシ子

早朝の病舎の窓より見渡せば色づき始めた稲穂美し 坂野町 橋本千代乃

老い深くなりたる思い侘しくて誰にも告げず玉ネギ刻む 横須町 柿本美知子

夏の日のきらめく川面眺めつつ旅してみたし子の待つ街へ 横須町 福島 夢栄

絵手紙の紫紺の朝顔さわやかにまさしく我の秋ははじまる 田浦町 西 照子

ゆつくりと殻脱ぐ蟬の抜けゆく羽根鮮やかなエメラルド・グリーン 立江町 大西 和美